

平成 28 年度第 2 回開成町総合教育会議 議事録

日時：平成 29 年 3 月 31 日（水） 15 時～16 時

場所：議会全員協議会室

出席者：（町）府川町長

（教育委員会）鳥海教育長、村岡委員、武井委員、露木委員、相馬委員

（説明員）中戸川子ども・子育て支援室長、橋本教育総務課長

（事務局）岩本企画政策課長、渡辺主任主事

町長あいさつ

本日の会議では、平成 28 年度の教育関係の施策の検証、及び平成 29 年度の予算についての説明をする。平成 29 年度予算は「子育て環境の充実」に加え、「北部地域の活性化」、「庁舎整備」を 3 本柱として予算編成を行った。

（北部地域活性化について）

北部地域活性化について、その核となる施設である瀬戸屋敷の運営を、4 月 1 日より民間の指定管理者オリエンタルコンサルタンツに引き受けていただくこととなった。4 月 1 日、2 日には指定管理者のお披露目を兼ね「せとわらしまつり」が開催されるので、教育委員の皆様にも是非足をお運び頂きたい。

これまで町は、駅東口の子育て支援センター開設、酒田みなみ保育園の開園等、子育て支援を軸に注力してきた。いずれも、南部地域の基盤整備の終了に伴い、若い世帯の移住を促進するための施策として進めてきたもの。

今後は北部と中部にも注力していきたい。現在、東京オリンピックを目途に、神奈川県が箱根と南足柄つなぐ県道を整備する方針が決まっている。南足柄市の道の駅整備と開成町の瀬戸屋敷周辺整備との相乗効果により、箱根方面に向かう観光客を少しでも開成町に取りこんでいきたいと考えている。

現状、雛祭りやあじさい祭りといった単発のイベントにおいては多くのお客様に足を運んで頂いているが、年間を通しての来場者数は減少傾向にある。

指定管理者による運営が始まることを機に、町としてもこれまで以上に北部活性化に力を入れ、瀬戸屋敷への来場者数の増加や北部地域の農産物の活用策について取り組んでいく。

また、指定管理者であるオリエンタルコンサルタンツが、瀬戸屋敷のすぐ近くにある瀬戸酒造店に 100%出資し、酒造再生に着手することが確定した。瀬戸屋敷と瀬戸酒造をセットで打ち出していくことにより、観光客の獲得による地域活性化や、酒米の生産による農業活性化につなげていきたい。

(庁舎整備・機構改革について)

平成 29 年度予算の最後の柱は、庁舎整備である。平成 31 年夏の新庁舎完成を目指し、来年度はプールの解体工事などの準備作業に着手する。

これまで、本来教育委員会の所管である文化・スポーツに関する業務の一部を町部局で行っていたり、逆に子育て支援室のように、町部局の業務の一部を教育委員会で実施したりしていた。今後、こうした業務の棲み分けについて、役場庁舎整備に併せた機構改革の中で、さらに考えていく。

それでは、本日は平成 28 年度の反省とともに平成 29 年度の教育関係の予算についても意見交換会をさせて頂きたい。よろしくお願いします。

教育長あいさつ

開会に先立ち、教育委員の任期満了に伴う変更があったのでご紹介します。昨年 12 月 14 日まで、府川委員が努めて参りましたが、任期満了に伴い、新たに武井委員が就任したので、よろしくお願いします。(武井委員「よろしくお願いします」)

平成 28 年度については、総合教育会議の中で教育大綱を策定し、日頃私たち教育委員会が取り組んでいることに、さらに組長部局のほうでも応援をして頂けるということで、大変心強い 1 年をスタートすることができた。

しかし、その中でも町長の想いを十分に発揮することができたかどうかということについて、先ほども（教育委員会の中で）土曜学校のことについて議論したが、私たちなりに精いっぱい努力をして、町長の思う子供たちの育成に取り組んだが、課題もたくさんある。来年度どうしていくか、もう少し検討する必要があると考えている。

いずれにしても、オール開成で子供たちを育てていこうということについては、皆で胸襟を開き、心をつなげて取り組んでいる状況。

おかげさまで、幼稚園の卒園式、両小学校の卒業式、文命中学校の卒業式は、非常に落ち着いた雰囲気の中、子供たちが立派にそれぞれの道を進んで行く姿を見ることができ、一定の評価をできるのかなと思っている。

ただ残念なことに、2 月現在、7 日以上学校を欠席している子供の数は、開成小学校で 5 人、開成みなみ小は 3 人、文命中学校は 23 人となっている。どのようにして子供たちを健やかに学校に来させるかということが、今一番の課題である。

そんな中、土曜学校のように、自分の好きなものを好きな時にやれるような講座を子供たちのために設けることは非常に大切だと考えている。土曜開催ということもあり、企業のほうとも折衝できなかったという例もあるが、サマースクールではこのあたりも補っていききたい。

ぜひ本日は、忌憚のないご意見を頂き、平成 29 年度は、さらに町長の想いを色濃く反映した教育を実施していきたい。オブザーバーの方も含め、教育委員会に対する厳しいご意見も頂戴し、教育員会として子供たちにできることをやっていきたい。

議題 1 協議事項 ア 平成 28 年度重点事業の報告

○子育て支援センターの開設について（中戸川 子ども・子育て支援室長）

駅東口の子育て支援センター、駅前窓口コーナー及びパレットガーデン自治会館の3つの機能については、開成町への定住促進を進めていくうえで重要な要素の一つであると考え、平成 28 年 4 月に小田急開成駅前ビルを借用したうえで開設した。

特に、子育て支援センターの運営については、社会福祉法人青い鳥に委託し、親子で遊べる広場を提供している。これは、子育て上の不安解消や仲間づくりの拠点として、町内 2 か所目に開所したもの。専門職である、歯科衛生士、作業療法士、栄養士、保健師などによる専門相談や開成幼稚園長を講師とした子育て講座の実施、また、少人数の保護者同士でお茶を飲みながら子育てを相談できる場としての「赤ちゃん和妈妈のティータイム」の実施等、様々な事業を展開してきた。

その成果として、子育て支援センターでは、開設後一日平均 18.4 組の方に利用されており、開設当初の目標としていた一日 20 組の利用については、概ね達成できたものと考えている。

また、同施設内に付設した、ファミリーサポートセンターについても、子供を預かる総合援助活動が、平成 27 年度比で約 2 倍となるなど、利用が広がっている。

今後も、利用者の需要を踏まえながら、きめ細かなサービスを提供して、子育て世帯の受入促進にますます寄与できるよう進めていきたい。

町長：本日会場に「青い鳥」の皆さんがいらしており、先ほどもこの件について少しお話しをした。この支援センターは駅前にあるということもあり、小田原等近隣市町からの利用者も多いとのこと。町としては、子育て支援態勢を拡充して、さらに子育て世帯の移住を受け入れていきたいという思いがある。支援センターをファミリーサポートセンターとセットで設置することができ、相乗効果により利用が広がっているということで、大変評価している。

子育て期の悩みが解消されることによって、幼稚園や小学校に進む中でも（悩みが）減ってくるということも言われている。問題の芽を早いうちに摘むことで、その後の生活も楽になってくるという、いい流れができたのかな、と捉えている。支援センターはまだできて 1 年ではあるが、皆様から何かご意見などあれば頂きたい。

武井委員：私は第 5 次総合計画の策定から関わっているが、この計画の基本コンセプトが「いつまでも住み続けたいまちづくり」ということで、庁舎建設の話はさておき、ソフト事業に力をいれていく、ということだった。目に見えない部分をきめ細かくやっていくというその時の考え方がまさにこの支援センターの取り組みに現れていて、大変良いことであり、もっと利用者が増えていけばいいと思う。

町長：平成 29 年度からは巡回バスを 2 台に増やすという取り組みを予定しており、子育て支援センターや保育園の前にも停車するため、利便性は高まっていくと考えている。巡回バスは当初、高齢者の外出機会を提供し健康になってもらうという意味合いで始めたが、支援センターを利用する親子の皆さんにとっても、今後さらに使いやすくなっていくものと思う。

相馬委員：支援センターには開設時の式典以来なかなか行く機会がないのだが、先ほど室長からお話があったように、他市町からも利用があるということは大変驚きだった。ご近所の方からもよい評判を聞いている。昭和の時代であれば、近所で先輩から自然に話を聞いたり支援をもらったりする機会もあったが、現代においてはなかなかそうならない部分もあり、現代のニーズをとらえた施設が開成町にもできたということは、大変喜ばしいこと。

町長：開成町は自治会も活発であり、まだまだ昔ながらの良さが残っているとはいえ、時代は変わってきている。地域の中에서도見守り活動に多くの住民に参加してもらっており、こうした昔ながらの良さを活かしながら、支援センターの活動自体も進めていくのはもちろんのこと、足りない部分は行政が補うことで役割を果たす、ということで進めていきたい。

○保育所の開設支援について（中戸川 子ども・子育て支援室長）

平成 28 年度中の町内 3 か所の保育所の利用状況は、定員 280 に対して 338 名と、定員の 1.2 倍の子供を受け入れており、保育環境として大変厳しい状況であると同時に、平成 27 年度以降継続して待機児童が発生している状況。

開成町では、定住促進の観点から、安心して子供を育てられる環境を用意するため、保育所は必要不可欠な施設であると考えており、計画的な設立認可にむけ、金銭的な支援も含め総合的な支援を行い、この度「酒田みなみの保育園」が完成した。定員 90 名・鉄骨造 2 階建て・延べ床面積約 740 m²。

平成 29 年度の利用者はほぼ決定しており、83 名の利用を見込んでいる。その他の保育園と併せ、入所希望したすべての児童の保育所入所が決まり、慢性的に続いていた待機児童はゼロになる見込みとなっている。

武井委員：待機児童問題は非常に大きな問題であり、4 年ほど前、私の身の回りで開成町が待機児童ゼロだという話をしたら、それってもっと PR してもいいんじゃないの、といわれたことがあり、当時、やっぱり行政 PR が下手なんだなと感じた。

今回、再度待機児童ゼロを達成する見込みということだが、これだけ子供が増えてきて、

なおかつ、新しい世帯にどんどん入ってきてもらおうとしている開成町だからこそ、この待機児童というのは絶対に死守して頂きたいし、しっかりPRもしてほしい。もしかすると、今までは行政同士の関係もあり、PRしづらいという部分もあったのかもしれないが、今はそういう時代ではない。

町長：PRの仕方は大事だと考えている。あまりほかの町と比べてしまうと、確かに少し問題になってしまうが、いいところは工夫しながらしっかりPRして、知ってもらうことが必要。町としても、保育所に対しては補助金を出す以上、また、卒業後は開成町の小学校に入学していくということからも、それなりの口出しはしていきたい。保育園に対してどのようなことを言っていけばよいか、幼児教育等の視点からも、色々と教えて頂きたい。その時はよろしくお願いします。

○三歳児教育の導入準備について（橋本教育総務課長）

平成31年の三歳児教育の導入に向けて平成28年度・29年度において老朽化対応と三歳児教育の実施に向けた耐震改修工事の設計と実施しているところ。

平成28年度の工事においては、県道の開通ということで、歩道と接する部分についての工事、さらに平成29年に空調設備を導入する前提として充電設備キュービクルを設置した。

また三歳児教育の実現に向けた課題などを整理するうえで、開成幼稚園と保育園の園長を中心とした会議を行っている。「開成町らしさ」をいかに教育課程に編成するのか、学級定員、クラス編成、バス、給食等、項目立てをして議論を進めている。

平成29年度も、PTAなどの関係する団体から意見を頂きながら、さらに課題を整理していきたい。

町長：ハード面については、準備を進めて頂きたい。なんといっても、平成31年4月からの三歳児教育の導入にあたり、その中身について、園長先生にも教育長にも話を聞き、いま「のびのび子育てルーム」という良い仕組みがあるので、これをいかに三歳児教育のなかに取り入れていくかということが、ここにいう「開成町らしさ」につながると考えている。子供だけでなく、親への支援も重要になってくると思うので、そのあたりも考えてもらいたい。現状を教えてほしい。

教育長：現在、子供のみで2日間、親子で1日、合計で週3日間は既に三歳児教育を実施している。入園式、卒園式を見て頂いてわかるように、3年間集団教育をしてくるということで子供たちが安定し、またしっかりと集団の中で自己主張もできているなど、効果を実感しているところ。

また、実際の本格スタートを見据えた課題解決が重要と考えており、バスは2台体制を維持する計画だが、運転士の問題もあり、どうやって動かすか、また路線をどうするか、

といった問題を平成 29 年度最初に検討してきたい。また、平成 29 年中に、ある程度、平成 31 年度のモデルとして試行し、給食に関しても、何食かは食べてもらおうということで検討している。

平成 28 年度はキュービクルの整備も終わり、後は外壁の塗装をして、ここに開成幼稚園があるんだということをしっかりと P R する方法を考えてく必要がある。

総じて、今は順調に進んでいると考えている。

町長：やはりイメージというのは重要。開成小学校のときも、壁や体育館の色を議論し、結果としていい色になったが、今回も、幼稚園らしい外観というものについて考えていってもらいたい。

ほかに、何か意見があればお願いします。

村岡委員：今、ソフト面という話が出たが、私たちが心配するのは、職員が、三年保育開始時に初めて三歳児を見る、という様な事態。今の「のびのび子育てルーム」の取り組みのように、年少年長以外の年代を見るということを何年もかけてだんだんとやっていく必要があると感じており、今回はうまく計画的に取り組んでいると感じている。非常に上手に進んでいくのではないかなと期待している。

町長：幼稚園教諭も確保していきたい。先日卒園式に参加して思ったが、子供たちも大変成長している。非常にのびのびとやっているという報告も教育長からあったとおり、現場をみるとしみじみと感じる。

今後も教育委員会の皆様の力を借りながら、良い三歳児教育を提供していきたい。

○土曜学校の創設について（橋本教育総務課長）

土曜学校では、土曜日の余暇時間をつかって、体験活動の充実を図るため、地域の方や団体の同意を得て、あじさい塾と題して全 18 回の講座を企画したところ。

講師の日程調整ができないことや、インフルエンザの蔓延による中止等により、実際には 15 回の開催となった。

ここでは、多種多様な講座・親子参観などを企画している。子供たちが希望するものはこちらが狙うものとの食い違いもあり、人気のある講座とない講座が明確に分かれたところ。

ただ、参加人数が少ない講座についても、参加した子供たちは、自分の知らない分野を知ることができてよかった、また来たいといった前向きな感想も多く寄せられている。

来年度については、子供たちからのアンケートの結果や今年の傾向を捉えて、プログラムを組んでいきたい。

町長：土曜学校については議会からも多く質問を頂いたところ。私としては、なかなか最初からすべてうまくいくとは思っていないが、一番重要なのはできるだけ地域のみなさんや地域の企業にかかわってもらい仕組みとしてやっている、ということだと思っている。

単に我々が子供に教え込もうとか体験させようという思いと、子供がやってみたいという思いはずれは大きいものがあり、やはり、押し付けるのは無理だろうと感じた。

まずは、子供が興味を引くような講座をつくって、徐々に中身を広げていく、というほうが良いという気がしている。とはいえ、一方ではきちんと計画してやっていくべきものであると思うので、地域のみなさんには私からも声掛けをしていきたい。平成 28 年度やってみて、シリーズとして次もやってみたいという声もあったので、そういうのは取り入れて頂きたい。

また、土曜が無理という場合は土曜にこだわる必要もなく、場所にもこだわる必要はないので、とにかく子供たちが地域の中で様々な体験をしていくということが重要である。

武井委員：土曜学校を直接見たことはないが、報告の書類等を読んだところでは、もし私の子供が小学生であれば、ぜひ参加させたいと思った。やはり、いろいろな体験や地域の歴史を小さいうちに触らせてあげたいと、今つくづく思っている。

たとえば、今年度パイロットを呼んだ講座では 14 名が集ったが、ここでパイロットっていいなという思いから職業観が芽生え、その中で 20 年後に本当にパイロットが生まれたら、それはものすごいこと。そういうものを一つ一つ、継続して、試行錯誤しながら作ってきたい。

町長：長期的な視点に立って、子供たちが後から振り返った時に、良かったと言ってもらえれば、それは最高のこと。そういう意味では、何人参加したかということはあまり重要ではなく、それ以上に、参加した子供たちがどういう心で受け止めてくれたかというのが重要。数値的な評価が言われるが、それはあまり気にする必要はないと思っている。今後も、保護者が、「行ってみたら？」と言ってもらえるようなプログラムを提供していきたいというのもあるので、保護者への PR 仕方も含め、工夫していきたい。皆様方におかれては、講師となっていただけのような方への促しも含め、協力して頂きたい。

○体験教育の充実について（橋本教育総務課長）

幕別との都市間交流事業を実施した。今年度は 19 名の開成町児童が幕別町を訪問した。このうち 11 名は前年度に幕別の子供たちを迎えた子供たち。今回幕別町を訪問するにあたっては、故郷である開成町を知って、振り返るいい機会にもなったのではないかと。また、参加した子供たちからは「言葉で言い表せないくらい良い体験だった」などの感想が寄せられている。また、子供が親元を離れた 3 泊 4 日というのも、親にとっても初めての体験となり、子供たちが幕別から帰ってきた際には、保護者の方々が子供たちを大変いとおし

く感じていたのが印象として残っている。

また、今回幕別でおもてなしを受けた中で、今度は自分たちがもてなすという思いが芽生えということも伺えたので、今後も交流事業は継続していきたい。

○プレイパーク事業の関係について（中戸川 子ども・子育て支援室長）

平成 27 年度から、日本冒険遊び場協会に委託し、町内での実践を通じ、運営を支える人材育成及び課題解決の検証をしているところ。

平成 27 年度に中屋村公園で実施したことに引き続き、平成 28 年度は実施場所を変えて、年 3 回実施をし、延べ 315 名が参加した。

これまでの 2 年間を振り返り、開成町の特色として親子での参加が非常に多い、ということが挙げられる。こういったことを通じ、子ども同士、親同士の交流の場になっており、新たな参加者の発掘が課題。これを踏まえ、平成 29 年度につなげていきたい。

町長：幕別との交流については、私も実際行ってみて、広大な土地で酪農などを行っている姿をみるのは、県で一番小さな面積の町に住んでいるということから見れば、非常にインパクトがあった。交流の具体の中身のこともあるが、それ以上に、実際に行ってもらい、見てもらうということが重要。今度来てもらう際は、おもてなしは開成町にとらわれず足柄地域全体でという話もしているので、今後もやっていきたい。

プレイパークについては、保護者の皆さんと一緒に楽しんでいる姿を見て私も驚いた。一方で、保護者の意識も変えていかないといけないとも思った。何でも安全が確保されているということではなく、自分で安全を守るというのを知ってもらうのもある面では必要。当事業についても、今後も継続していきたい。

露木委員：北海道から帰ってきた子供たちが 9 月に報告会にて報告するのを見、また、報告の冊子を読み、子供たちなりの充実した部分を感じた。全ての児童に同じ体験を与えることはできないかもしれないが、こうした環境を与えることは重要。8 月に来られるときに、多くの児童が触れ合って、開成を上手に P R する機会となればと思う。

村岡委員：交流のための自己負担の件だが、家庭によっては払えないところも当然ある。やはり、長く続けるには、財政が厳しいことも承知しているが、自己負担を下げていき、多くの児童が参加できるようにすることも一つの考え方かなと思う。

その反面、これだけのお金を出すのだから一生懸命学んで来よう、という気持ちも出てくると思うので、全部無料にしてしまうと、逆に学び取ろうという意識がなくなってしまう。決して無料にしろというつもりはなく、難しいが、「これくらいなら行ってみよう」と思えるような金額設定については、一度考えてもらいたい。

教育長：教育委員会の皆さんにはお話をしていなかったのかもしれないが、前回、幕別の子供たちをお迎えした際、幕別の子供たちはいくらで来て、お小遣いはいくらなのか話をした中で、来年もし幕別に行くならいくら出せるのかという話をした。結果、2万円くらい、という話になった。実際には何倍もかかるわけだが、そういったこともあり、今回2万円という設定にした。やはり、一定の自己負担もあったほうがいいと考えており、今回はこの金額に設定した。

来年度については、こちらがもてなす方なので、自己負担はほぼゼロなるが、訪問の金額設定は大変難しい問題だと感じている。一度幕別町に行った子供が、2年後もう一度行きたい、と言ってくる場合もあるが、その場合、中学生や高校生は、リーダー役・指導員としていってもらえるのだから、無料でもいいという整理にするのか、そのあたりについては内部で検討しているところ。実際にまた行きたいと言っている中学生はいる。

また、何人の何班体制にするかも悩ましい。今回、募集20名のところ応募が19名あり、残り1名をどうするかという対応には苦慮した。再募集や、前回落ちてしまった人に声掛けするなどによって選ぶ等した。いずれにしても、事業自体はいい成果があがっていることは確か。

お金がないという問題については、体験教室という方法もある。60周年の時は真鶴町との交流を実施し、開成の子供は海で遊び、真鶴の子供は田植えを楽しむなど、お互いの町の特性を生かしての体験で交流してきた実績もある。だんだん密度も濃くなってきているなという印象を持っている。

町長：負担のことは今後も検討するが、無料ということはない。それなりの負担はしてもらう必要があると考えている。交流の相手先という意味では、北海道幕別町と真鶴町のほか、川崎市多摩区とも4月以降交流を進めていきたい。多摩区では、古民家やあじさい寺等、開成町と相性も良く、ドラえもんなどの観光資源もある。区だけで21万人の人口があり、市との協定を結ぶのと同等の意味合いがある。4月以降の話になるが、今後もやっていきたい。

議題1 協議事項 イ 平成29年度予算の考え方について（府川町長）

平成29年度予算の重点事業について説明する。

一つ目は待機児童の解消。酒田みなみ保育園が開園し、懸案だった保育士も確保できた。定員にも余裕があり、今後さらなる幼児の増加にも対応できる。

二つ目は開成幼稚園での三歳児教育の導入というところで、先ほどお話しした通り、平成29年度も皆さんの協力を得ながらやっていきたい。

三つ目は、新しい取り組みとして、子供の読書活動の推進を目的に、7～8か月健診時に、赤ちゃんが絵本に触れてもらうきっかけづくりとして「ブックスタート」という取り組みを始めていく。実際に保護者の方に読み聞かせをしてもらって、子供が気に入った絵

本を差し上げて、家庭の中で親が子供に絵本を読んでもらうような働きかけをしていきたい。それほど予算を要する事業ではないものの、ソフト事業の充実という観点で、進めていく。

四つ目の校庭開放については、教育委員会からも提案を頂いたということで、現在においては、昔以上に安全確保対策をする必要があるといった問題もあるが、是非取り入れていきたい。

五つ目は土曜学校の充実及び六つ目体験教育の充実については、先ほどお話ししたとおり進めていく。

以上、継続事業・新規事業と様々あるが、開成町は子供の教育に力を入れていくということを出していきたい。何かご意見があれば、反映させていきたい。

武井委員：子供の読書活動の推進をここに挙げているのは非常にうれしく思っている。本を読んでもほしいということで司書さんともよくお話をさせて頂いているが、方針として示されることで、教育委員会もこのことにより意識が向くし、学校サイドや保護者の意識も変わっていくと思うので、個人的にはすごく嬉しい。

町長：本も機械で読める時代だが、人の声で読み聞かせるというのは、想いが伝わるという意味でとても大事だと思う。学校の図書室を充実させるなど取り組みは進めて頂いてきたが、うまくPRできておらず、もったいないなと思う部分もあった。開成町のみなさんは教育への関心も高いので、できることから進めていきたい。

武井委員：ここには書かれていないことだが、開成小学校のプールについて、ぜひ早め早め設置をお願いしたい。南小学校が7年前にでき、様々な設備が整っている中で、開成小学校においては築年数や建築上のトレンドの問題もあり、内外装や図書室などを何とかいい状態にしていこうということをずっとやってきている。それについては町民も理解をしてくれていると思うが、ただ、南小にプールがあるのに開成小にないというのは、設備面で少しさみしいと感じる。すでに皆さん色々検討されている中かとは思っているが、ぜひ早めの設置をお願いしたい。

町長：南足柄市体育センターの温水プールを使わせてもらうことになっており、温水ということもあり年間通じて使えるといった利点もある。平成29年度実際にやってみて、父兄やPTAのみなさんの意見も聞いたうえで、方向性を示していく。

議題 その他

岩本課長：お手元に、平成27年国勢調査人口集計結果を置かせて頂いた。人口などの結果

がでているので、ご参照頂きたい。

平成 27 年 10 月 1 日現在の人口は 17,013 人、6,169 世帯ということで、前回平成 22 年からの人口増加率 3.9% 世帯数増加率が 7.3%ということで神奈川県内市町村の中で 1 位。また、年少人口については、2,595 人。割合として 15.3%で、区を除く県内市町村でこちらも 1 位となっている。

先ほどよりお話し頂いた、教育・子育てに関する様々な施策の実施結果が表れていると認識している。

今後も、様々な施策を展開していく中で、定住移住を促進していきたい。

町長：開成町の実態として、捉えておいて頂きたい。これについて、またその他についても、何かご意見などあれば発言頂きたい。

武井委員：それでは最後に一点。あじさいちゃんは、本当にいいね！この前駅前でのチラシ配りの際に来てもらったが、パワーというかオーラがでている。町のブランドとして定着したとつくづく感じた。これも、力の入れ方なのかな、と感じた。

以上